

<b>Title</b>	韓国のルーテル教会の現況と歴史(2)
<b>Author(s)</b>	宮本, 悟
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-3 : 5-7
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2657">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2657</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

# 韓国のルーテル教会の現況と歴史 (2)

宮本 悟

## 1. 韓国のルーテル教会の発展軌跡

韓国ルター教宣教部 (KLM) が発展していく過程での悩みの一つは資金であった<sup>(註1)</sup>。韓国ルター教宣教部は伝道初期からそれに悩まされていた。その解決方法の一つが不動産収入であった。

韓国ルター教宣教部による伝道活動が始まって拡大していくと、自らの事務室が必要となってきた。韓国での宣教開始当初、米国人宣教師は自宅を事務室として使っていたが、池元溶が帰国すると彼の自宅を事務室として使った。さらに、1959年5月にはソウル駅付近に、1960年にはソウル市庁付近の徳寿ビル (音訳) に事務室を借りた。しかし、手狭となった韓国ルター教宣教部は、米ルーテル教会ミズーリ・シノッド (LCMS) の教会開拓基金から資金を借り入れて、1963年に済東ビル (音訳) を購入した。5階建ての済東ビルの4階の1部屋のみを事務室に使い、1階の一部を出版物販売の書店にして、残りは賃貸に出し、その収入によって借入金を返済していった。当時の韓国の経済成長もあって、20年3ヶ月の予定が、13年半で借入金を返済した。

この不動産賃貸によって収入を得る経験は、現在の基督教韓国ルター会 (LCK) にも生かされている。新たに建設された「ルター会館」も多くの部屋が賃貸に出され、基督教韓国ルター会の収入となる。基督教韓国ルター会は、その収入を元に、借入金を返済したり、新たな伝道活動の資金としたりするのである。基督教韓国ルター会は、伝道初期に資金調達の高貴な経験を積んだといえよう。

韓国ルター教宣教部が発展していくと、組織の改編も必要となった。韓国ルター教宣教部の部長はもともと米国の宣教師が就任していたが、1969年からは外国人1名と韓国人1名の共同議長を置くようになった。さらに、韓国のキリスト教団として拡大編成するための教団憲法の作成が始ま

り、1970年には草案が完成した。韓国ルター会宣教部は、韓国ルター教宣教部 (KLM) と改名して、1971年2月26日に第1次総会を開催し、憲法と附則を公布した。初代総会長は池元溶である。こうして、ルーテル教会は正式に韓国のキリスト教団として成立した。韓国ルター宣教会は、1973年の第3次総会で韓国ルター教会 (LCK) と改名し、1980年に現在の基督教韓国ルター会と改名した。

教団への改編の最中、国際的な組織であるルーテル世界連盟 (LWF) への参加も始まった。1968年1月にLWFは、LWF世界宣教局に属するアジア地域総務への就任を池元溶に依頼した。その時点では、韓国ルター会宣教部はまだLWFに加盟していなかったにもかかわらず、である。池元溶は承諾して、1968年7月にLWFのアジア地域総務に就任した。これを契機にして、韓国ルター会宣教部はLWFとの関係を持ち始め、教団として成立した韓国ルター宣教会は、1972年7月にLWFに正式加盟を果たした。基督教韓国ルター会になった現在も、LWFの加盟教団として活躍している。

韓国のルーテル教会の発展は、国内における教会数にも反映されている。韓国ルター教宣教部によって1959年5月17日に設立されたインマヌエル・ルター教会 (後の道峰ルター教会) が韓国における最初のルーテル教会であった<sup>(註2)</sup>。その後、往十里ルター教会 (1963年9月8日設立)、中央ルター教会 (1967年1月28日設立)、玉水洞ルター教会 (1968年2月18日設立) と1960年代末までには4つの教会が設立された。1970年代には6つ、80年代には10つ、90年代には9つの教会が設立された。現在 (2010年10月15日)、全国に47カ所の教会と1カ所の在韓外国人教会が設立されている。

また、教会は、1970年代からは地方へも広がっていった。首都であるソウル特別市以外で最初に設立された教会は、1974年6月2日に設立された釜山第一ルター教会である。1978年3月には「1978

－88年度のための全体計画」を打ち立て、ソウル以外の全国すべての大都市に新しい教会を設立する計画を樹立した。そして、現在では、全国すべての道（日本の県に相当）の地域にルーテル教会が展開している。

韓国の他のキリスト教団に比べれば、韓国のルーテル教会の歴史は短く、信徒も少ないが、最近でも毎年数個の教会が新設されており、おおむね着実に発展してきたと評価できるかも知れない。現在、基督教韓国ルター会では、2017年まで70個の教会と1万名の信徒を持つことを目標とした「70教会1万名聖徒運動」を展開している。基督教韓国ルター会は、これからも発展への強い意欲を持っているのである。

## 2. 最近の傾向

先述したように韓国のルーテル教会は全国すべての道に展開しているが、地域としてはそうであっても、行政区域として道から広域市（日本の政令指定都市に相当）を区別した場合には、2つの道と1つの広域市にルーテル教会が存在しない（註3）。それは韓国南部にある全羅南道と慶尚南道、蔚山広域市である。それを考えると、地方（特に韓国南部）への展開にルーテル教会はそれほど積極的ではなかったとも評価できよう。



第39次基督教韓国ルター会定期総会参加者記念撮影写真（日時：2009年10月9日、場所：ルター大学校）。筆者は2列目の左から4番目である。

全羅南道と慶尚南道、蔚山広域市にルーテル教会が設立されなかったのは、全羅南道の中にある光州広域市と慶尚南道の中にあつて蔚山広域市に接する釜山広域市に教会が設立されていたので、必要とされなかったためかも知れない。しかし、やはり韓国南部のルーテル教会は人口を考えても少ない。いずれにせよ、韓国のルーテル教会は、自然な流れかも知れないが、ソウル特別市や京畿道といった首都圏に集中している。2008年8月以降、現在まで新設された5つのルーテル教会もすべて首都圏である。最近では、むしろ、地方に新教会を設立しようとする活動は下火になりつつあるように受け止められる。

2009年10月8日から9日に開催された「第39次基督教韓国ルター会定期総会」の報告書を読む限り、基督教韓国ルター会が新しい教会を設立しようとする場所は、新教会を担当する予定の牧師の提案によって決まるようである。ということは、若手の牧師に、首都圏に教会を設立しようとする傾向が強いと考えられる。その要因は不明である。しかし、年々、韓国では首都圏に人口が集中する傾向があることはよく知られている。そのため、若手の牧師が新しいルーテル教会を首都圏に設立しようとすることは不思議ではない。報告書を読む限り、新しい教会を支援する役割を担う基督教韓国ルター会の「開拓－教会成長支援委員会」も、それを問題にしていない。地方の教会開拓への意欲は、これからも小さくなっていくのかも知れない。

ただ、当然ながら、新しい教会を開拓し、未信者に福音を伝える伝道そのものは基督教韓国ルター会にとって最重要な活動である。しかし、最近では、その伝道活動が憂慮される状況にある。基督教韓国ルター会の信徒数は、「第39次基督教韓国ルター会定期総会」の報告書によると、2009年7月31日の時点で4856名であった。しかし、その1年前は5060名であった。これだけでは断定できないが、基督教韓国ルター会の信徒数は減少傾向

に転じた可能性がある。もちろん、韓国のプロテスタント信徒数そのものが伸び悩んでいるか、減少している現状において、韓国のルーテル教会もそうなることは避け難いかも知れない。

しかし、現在、「70教会 1万名聖徒運動」を展開している基督教韓国ルター会では、信徒が減少することは憂慮すべきことである。2010年10月11日から12日に第40次基督教韓国ルター会定期総会が開催された。原稿執筆時点で、その報告書をまだ入手していないので詳しい内容は不明であるが、今年2つであった新教会の設立を来年度は4つにし、体系的な開拓マニュアルを作成するなど、教会開拓に力を入れることが決定されたといわれている。おそらく基督教韓国ルター会は、教会開拓による伝道活動の強化によって、信徒数を伸ばそうとしていると考えられよう。

この第40次基督教韓国ルター会定期総会は大森洞教会で開催されたが、開会礼拝は新たに建設された「ルター会館」で10月10日に行われた。同時に、「ルター会館」のマルティン・ルター銅像除幕式とルター会館奉献礼拝も行われ、日本からも日本ルーテル教団議長である糸井豊・札幌中央ルーテル教会牧師が参席した。基督教韓国ルター会総会長である嚴玄燮（音訳）は、「1971年に第1次総会を開いたルター会は、その時から10倍も成長し、牧会者数も11倍に増えた」と40年を振り返った。40年間で10倍になったが、7年後には約2倍になる目標を達成できるのか、それが基督教韓国ルター会の大きな課題となっているのである。

## 参考文献

- 基督教韓国ルター会「第39次基督教韓国ルター会定期総会」（発行所、発行年記述なし）[기독교한국루터회「제39차 기독교 한국루터회 정기총회」(발행사, 발행년 불명)]
- 基督教韓国ルター会「地域ルター教会案内」[기독교한국루터회「지역 루터교회 안내」] <http://lck.or.kr/lck/main/> (2010年10月15日アクセス)
- 基督教韓国ルター会「教団関連報道」[기독교한국루터회「교

- 단 관련 보도」] [http://www.lck.or.kr/lck/dboard/list.php?board\\_name=lck\\_lcknews](http://www.lck.or.kr/lck/dboard/list.php?board_name=lck_lcknews) (2010年10月15日アクセス)
- 池元溶『韓国ルター教史』（ソウル、コンコルディア社、1989年）[지원용『한국 루터교사』（서울、킨콜디아사、1989년）]
- 朴成完 編『韓国ルター教会宣教50周年史料集』（ソウル、コンコルディア社、2008年）[박성완『한국 루터교회선교50주년 사료집』（서울、킨콜디아사、2008년）]

- (註1) 韓国では一般的に「ルーテル」という発音は使わないので、韓国語原文や固有名詞をそのまま訳すときには「ルター」を使った。
- (註2) ただし、現在、道峰ルター教会の設立日はソウルYMCAの会議室で伝道集会在開催された1959年2月15日になっている。
- (註3) 現在の韓国の行政区域では、1個の特別市、6個の広域市、8個の道、1個の特別自治道になっている。

(みやもと・さとる 聖学院大学総合研究所准教授)